

夢のつばさプロジェクト

2018年春の交流会 学生報告書

【実施期限】 2018年3月25日(日)

【開催地】 宮城県仙台市：宮城野区中央市民センター、生涯学習支援センター

【参加者】 子ども：19名（小学生12名、中学生4名、高校生2名、専門学校生1名）

学生ボランティア・OB/OG：20名、社会人ボランティア：3名

◆2018春の交流会について

夢のつばさプロジェクトの春の交流会は今回で6回目となりました。当日の朝には天候が心配されましたが、雨が降ることもなく、元気な19名の子ども達と賑やかな一時を過ごすことができました。

今回は、午前中には、宮城野区中央市民センターにて、たこ焼き器を使いベビーカステラを作る企画、お菓子作りを行いました。同じ時間には、一部学生と保護者3名で保護者懇談会も行われました。午後には、生涯学習支援センターへ移動し、秋の交流会で大好評だった運動会を行いました。短い時間でしたが、同じ班の子ども同士、子どもと学生が楽しい思い出を共有することができました。以下に詳細をご報告いたします。

◆タイムスケジュール・詳細

時間	子ども達の動き	保護者会の動き
10:20	子ども達仙台駅集合	
10:35	仙台駅出発	
11:00	宮城野区中央市民センター着	11:00~12:00
11:10	お菓子作り開始 …①	保護者懇談会 …②
12:30	昼食	
13:15	宮城野区中央市民センター発	
13:45	生涯学習支援センター着	
13:55	運動会開始 …③	
15:30	自由時間	
16:00	生涯学習支援センター発	
16:10	仙台駅着	
16:20	解散	

①お菓子作り

たこ焼き器とホットケーキミックスを使い、ベビーカステラを作りました。5班に分かれ、それぞれの班で子ども同士がお互いに協力し、高学年の子どもが低学年の子どもを手伝いながら作る光景が見られました。たこ焼き器でベビーカステラを作った後、チョコペンやマーブルチョコ、ポイフルなどのお菓子を使いトッピングをしました。トッピングの材料は、各班に配られた謎を解くことで見つかることができるようになっており、子ども同士で協力して取り組んでいました。トッピングの仕方は、一人ひとりの個性が表れており、ベビーカステラを亀の甲羅に見立て亀を作っている子どもやチョコペンで何重にもハートを書いている子どももいました。



②運動会

生涯学習支援センターに移動し、午前とは違うチームで運動会を行いました。2017秋の交流会で子ども達に大好評だった運動会から種目を変え、今回はブーフーウー・増脚&借り者競争・リレーの3種目を行いました。さらに、今回の運動会は子ども対学生で得点を競い合いました。

チーム分けのために行ったブーフーウーは、一人ずつ配られた封筒の中に書かれている一文字のみを話し、同じ一文字を話している相手を見つけるというゲームです。子どもも学生も一生懸命な大声で自分のチームの人を探していました。

増脚&借り者競争では、ブーフーウーで作ったチームで行いました。お題が置かれているところまで2人3脚で行き、お題に沿って借りる者を探し、その後はゴールまで3人4脚で進みました。3人4脚は少し難しかったようですが、3人で「1、2、1、2…」と声を出し、息を合わせてゴールに向かっていました。

最後のリレーは子ども対学生で行いました。ダブルする、スプーンでボール運び、スキップなどのハンデを学生と子どもに課し、行いました。走順決めをするとき、高学年の子どもが前に立ち、リーダーシップを取っている姿が見られました。子どもも学生も本気で競争し、運動会の最終種目ということもあり、一段と盛り上がりを見せてくれました。結果は子どもチームの勝ちとなりました。

最後に、運動会の得点合計の発表を行いました。リレーの結果が最終結果に大きく影響し、運動会は子どもチームの勝利で終わりました。



◆春の交流会を終えて

今回の春の交流会は、子ども達同士の輪を広げるという目標のもと企画しました。今までの交流会でつながることが少なかった子ども達同士をつなげ、これからの交流会を子ども達同士、子どもと学生がさらに楽しいものになるよう取り組みました。1日を通して、楽しい時間を共有することで、かけがえのない思い出ができ、子ども達同士の新しいつながりが結ばれたと思います。

この春の交流会で結ばれた新しいつながりを今後の交流会でさらに強めていき、子ども達全員にとってさらに楽しい交流会になるよう、スタッフ一同力を合わせて努力して参ります。

また保護者懇談会では、スタッフが夢のつばさの活動で感じる子どもの成長などもお伝えして、良い交流ができました。ふだんはゲームに熱中して宿題に行きつかないこともあるようで、保護者からスマホやゲーム機のルールを、再度、夢のつばさで子どもたちに話してほしいという要望が出されました。宿泊行事の間は、保護者にとっても一息つける日々となっているというお話も伺い、毎日仕事と子育てで、心の休まる暇のないひとり親の方などのご苦勞を感じ、少しでも役にたてることをうれしく思いました。

最後に、保護者の方々や社会人スタッフの皆様をはじめ、日頃より夢のつばさを見守り、支援してくださっている皆様に感謝を申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

大学生ボランティア春の交流会統括 お茶の水女子大学3年 早川千穂